

要 望 書

氷見市長 林 正之 様

時下益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

また、平素より当地域の発展に深いご理解と格別のご配慮を賜り厚くお礼申し上げます。

早速ですが、東地域まちづくり協議会では、今年度計画書を作成し、それに基づいて活動を展開しております。その活動の中で、「東地域夏季ふれあいラジオ体操」を活動の中心に据え、8月4日（日）に第3回目を実施致します。

このラジオ体操は、極めて健康的で老若男女誰もが参加でき、地域づくりにとっては絶好な行事であると考えています。今、幼・小・中・高校生や若者がこの行事・活動を末永く継続し、将来海越しの立山連峰が世界遺産に指定されるとき、このような地道な活動が評価されることと思います。この活動を全国に発信するためにも、「NHK夏期巡回ラジオ体操」を招致することを要望します。このような体験は、子どもたちはもとより、若者にとって忘れることのできない思い出となり、このことが人づくり・まちづくりにつながるのではないのでしょうか。

夏期巡回ラジオ体操の受け入れは、規定上氷見市であります。東地域で協力できることは可能な限り協力させていただき、氷見市との協働による行事としてその誘致を進めていただくことを願います。

市当局におかれましては、公務ご多用とは存じますが、東地域や氷見市の子どもたちや若者をはじめ、広く市民の連帯感・所属感を一層高め、より強い絆で結ばれる地域・氷見市を実現するため、その誘致活動を展開していただきますよう要望いたします。

令和元年7月吉日

東地区自治振興委員協議会

(順不同)

会 長	大嶋 充	(北加納自治振興委員 以下地区のみ表記)
副会長	大森 征和	(加納町) 副会長 中波 勇 (今町)
	柿谷 敏之	(本川) 放生 寛治 (入船)
	村井 隆	(湊) 網谷 隆幹 (中町)
	阿尾 敏男	(浜町) 山崎 晴弘 (新町)
	小林 寛次	(幸町) 田畑 一 (池田町)
	河元 隆	(池田町) 松尾康次郎 (北加納)
	中尾 友秀	(宗源寺) 川上 悦男 (諏訪野)
	東地域安全なまちづくり会長	藪中 進
	東地区社会福祉協議会長	表 孝信
	東地区交通安全協会会長	小林 寛次
	東地区老人会長	野村 安夫
	リトルひがし代表	恵比寿泰子



ラジオ体操で東地域のつながりをより強く 老若男女 心と体を一つにできるものはラジオ体操

ラジオ体操は体力づくりをし、人のつながりを深めると共に運動不足や体力低下・生活習慣病を阻止することができます。近年、生活が便利になり、家庭では電化製品やコンピュータの普及、さらには情報技術・科学技術の革新が進む中、私たちの生活はますます便利で快適になってきました。

一方、便利になることで、日常生活において体を動かす時間が減少しています。その結果、運動不足や体力低下、生活習慣病の増加など、悪い条件が重なり、人間が本来有している様々な機能、免疫力が低下し、体に悪影響を及ぼしています。また、高齢社会を迎え、健康寿命をより延長する予防対策の実行が強く求められていて、自立した生活を過ごせるよう生活習慣病及び寝たきり予防への取り組みが重要となってきました。さらに、健康、医療、介護などの問題が国民はもちろん東地区の大きな関心と課題になっています。

生活をとおして、心身ともに豊かな健康な生活を過ごすことは、みんなの願いです。そこで、東地区の健康づくりへの取り組みの一つとして老若男女誰もが知っているラジオ体操を実施することを提案します。また、本活動に適する施設「緑地公園」が幸いにも本地域に存在していることも有難いことであります。

ご承知のとおり、ラジオ体操は国民の健康増進を目的に、かつての通信省簡易保険局により1928年（明治35年）に初めて制定されました。現在、私たちが親しんでいるラジオ体操第1ができたのは、1951年（昭和26年）で、「いつでも、どこでも、だれでも」気軽にできる優れた健康法として全国的に定着しています。

東地区ラジオ体操の「基本理念」

- 肉体的・精神的に健康な体づくりをめざします。
 - ① 広く東地区の住民の健康維持増進に寄与していくため、年齢や性別で区切らない幅広い層を対象に参加を呼びかけていきます。（学校にも働きかける。）
 - ② ラジオ体操に参加することで、人とのふれあいの場が増え、互いに人と人とのつながりができ、それぞれの地域との連携づくりにも生かします。
 - ③ 夏休み期間中、小学生・中学生を対象に夏季ラジオ体操を可能な限り実施できるよう地域児童クラブや学校にも協力してもらうよう働きかけます。
 - ④ ラジオ体操は健康づくりに役立ち、だれでも、どこでも、いつでも始めることができる手軽な運動であり、あらゆる機会をとおして呼びかけていきます。（NHK夏季ラジオ体操の招致）

子どもは地域の未来づくりの主人公・宝

子どもは、どんな厳しい状況でも意義を唱えたり、生まれてくる所を選ぶことはできない。子どもの声に耳を傾け、自分たちにできることをみつけて取り組む。

子たちは地域で生まれ、地域で育つ。地域の未来は子ども（地域と学校の連携）



地域の子たちが主体性を持って、地域の財産（資源・特徴）を活かした活動を行う場づくりの提供・支援



幼・小・中学校との連携、校長・PTA・保護者への依頼（学校と地域相互の共同活動）



（地域の教育力の回復）



地域に愛着と誇りを持ち、地域の将来を担う大人へと成長する

期待する効果

- 地域住民による交通安全指導、挨拶運動により、子どもを守ることができる。
- 地域への愛着と誇りが一層高まり、一方では地域課題の把握することができる。
- 地域の連帯感・所属感が向上する。
- 世代間交流による地域の文化（風習・伝統・歴史）を認識するとともに、地位文化の持続・発展への意欲づくりに繋がる。
- これまで各行事に参加していない大人への働きかけにより参加意識の向上を図ることができる。
- 子どもの視点で地域づくりの方策を探ることができる。

事例

- ・東地域夏季ふれあいラジオ体操
- ・挨拶運動

□天地人

学校帰りの小学生だつた。大きなヘッドルを背負った小さな男の子だった。交差点の横断歩道で擦れ違つて、「こんにちは」という元気な声が飛んできた。少ぶっぴりしながらも「こんにちは」と返したが、心の中をさわやかな風が吹き抜けたようなすがすがしい気持ちになった▶氷見市の街中での体験である。男の子に特別なことをしている様子もなく、いつものおもしろき道だり前のように行っている感じがした。軽やかに走り去った姿を見たら、映画のロケで氷見に滞在していた俳優がこんなヘッドルを話していたことを思い出した▶仕事終わる毎朝の目線にしているジジキバグに出ると、通り掛かると子どもたちが、見知らぬ私に「おはようおはよう」とおもむきする。都会では信じられないこともあり、すごい感激したという▶通学途中の子どものみが襲われたり、交通事故の巻き添えになったりするのは悲惨な出来事が相次いでいる。見知らぬ大人が子どもに下手に語り掛けたり、不審な言掛けとして警察に通報されかねない「物騒」な世の中でもある。それだけに氷見の子どもたちの屈託のないおもしろい、まるで別世界に来たような強い印象を返したのだらう▶心地よいおもしろい、人と地域を幸せにする「魔法の言葉」でもある。そのことを、氷見の男の子の自然な振る舞いに改めて教えられた。

地域の方からこのような記事もいただきました。

北日本新聞がやります。

7/7 北日本新聞

谷内